

令和5年度 第79回夏休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

主催
協賛
後援

岩手県良書推進協議会
岩手県学校生活協同組合
岩手県小学校校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

目次

- 一 祝辞
- 二 入賞者名簿
- 三 入賞者作品
- 四 審査を終えて
- 五 応募者名簿

表彰式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読
盛岡市立土淵小学校 五年
金 森 一 花
- 七 感想発表
花巻市立湯口小学校 二年
佐々木 蒼 空
- 八 閉式のことば

審査員

- | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 大石 善弘 先生 | 近藤 澄江 先生 | 畠山 明美 先生 | 藤村 由美 先生 | 田代 五月 先生 | 大淵 奈実 先生 | 永井臣之介 先生 | 杉浦美香子 先生 | 谷藤 里佳 先生 |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|

本との出会いを大切に

一般社団法人岩手県PTA連合会

会長 山下泰幸

第七十九回夏休み良書推薦運動読書感想文コンクールに入賞された皆さん、おめでとうございます。皆さんは沢山ある本の中で、今回の一冊を読んで感じたことを、読書感想文にしました。

図書館や書店では数多くの本が棚いっぱいに並んでいます。どんな本を読もうか迷った時にとっても参考になるのが推薦図書です。そして、岩手県良書推進協議会の「夏休み良書推薦運動」では学年に応じて推薦されていて、本を読むきっかけづくりとなっています。

同じ本であつても、人それぞれ感じ方が違います。それが、読書の面白さではないでしょうか。読書は自由で楽しいものです。夢中になって読んでいるうちに、その本の世界に入り込み、時には主人公になっ

てみたり、誰かに例えたり、笑ったり泣いたり。わくわくしたり、ドキドキハラハラしたり。自分だけの世界が広がっていきます。時には、ものすごく考えさせられることもあるでしょう。それは心の栄養になるはずです。そして、心が豊かになります。

読書を通じて生まれる様々な感情は、想像して、自分に例えるだけではなく、相手の立場に立ってみることもあり、それが日常生活においても自然と役立っているのです。相手の立場になって物事を考えることが出来る人は、思いやりの気持ちがあるということです。また、優しさにもつながります。

「読書は人生が豊かになる」とも言われています。もしかしたら、お気に入りの一冊が、人生において頑張る糧になるかもしれませぬ。言葉は人の心を動かすこともあります。

皆さんが、これから先も、より多くの本と出会い、楽しみながら読むことを大切に、読書を通じ、心豊かに成長していくことを願っています。

令和5年度 第79回

夏休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

『は図書名』

〈最優秀賞〉

まほうのじどうはんばいきをよんで 『まほうのじどうはんばいき』

宮古市立山口小学校 一年 上部 咲巴

みかたはそばにいるよ 『まほうのじどうはんばいき』

花巻市立湯口小学校 二年 佐々木 蒼空

いのちの大切さ 『ハニーのためにできること』

滝沢市立滝沢第二小学校 三年 中村 空煌

私ができることを 『アニメ版 ガラスのうさぎ』

盛岡市立桜城小学校 四年 五日市 晃緒

自分らしく生きる 『ばーちゃん』

盛岡市立土淵小学校 五年 金森 一花

なりたいたい自分になるために 『アタックライン』

盛岡市立山岸小学校 六年 矢羽々 愛星

〈岩手県小学校長会長賞〉

わたしだったらいこうするよ 『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立上田小学校 二年 田口 実千花

戦争を起こすのも、止めるのも 『アニメ版 ガラスのうさぎ』

宮古市立山口小学校 四年 箱石 好南

のらねこゼロを叶えたい 『保護ねこ活動 ねこかつ！』

盛岡市立土淵小学校 六年 吉田 那乃葉

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

くらべてよむとおもしろい 『ちゅうもんのおおいりょうりてん』

盛岡市立上田小学校 一年 土井尻 惺介

命を守りたい 『ハニーのためにできること』

陸前高田市立気仙小学校 三年 河野 心和

風を切って走る自分になるために 『アタックライン』

軽米町立晴山小学校 五年 古舘 陽和

〈岩手県PTA連合会長賞〉

わたしのみかた

『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立北厨川小学校 二年 楠山佳奈

小さいことも協力すれば大きくなる

『保健委員は恋してる』

平泉町立長島小学校 四年 千葉愛美

百年時代をより良く生きるために『Oh!金の学校』

宮古市立田老第一小学校 六年 伊東光輝

〈優秀賞〉

やさしいほん

『くろくんとなぞのおばけ』

宮古市立山口小学校 一年 木川心稀

もしもまほうがつかえたら

『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立山岸小学校 二年 矢羽々幸星

やさしいカイト

『こわがり子ネコのほしいもの』

花巻市立大迫小学校 三年 伊藤綺香

星空図書館のまほう使い

『星空としょかんへようこそ』

一戸町立奥中山小学校 四年 猪又結月

前向きな気持ちと努力の大切さ 『アタックライン』

八幡平市立大更小学校 五年 佐々木詩

ジェロームの死から差別を考える 『ゴースト・ボーイズ』

宮古市立田老第一小学校 六年 中村紹鵬

〈入選〉

「すいどう」を読んで

北上市立南小学校

二年 小松

瞬

『すいどう』

自分のために

盛岡市立北厨川小学校

二年 深澤 一生

『まほうのじどうはんばいき』

カイトとボタンのたからもの

滝沢市立滝沢小学校

三年 藤波 里桃

『こわがり子ネコのほしいもの』

「地球の中に、潜っていくと…」を読んで

宮古市立千徳小学校

四年 工藤 侑矢

『地球の中に、潜っていくと…』

アタックライン

滝沢市立滝沢小学校

五年 高橋 紗彩

『アタックライン』

なりたいたわしになるために

釜石市立鵜住居小学校

六年 久慈 廣多

『アタックライン』

〈学校賞〉

宮古市立山口小学校

〈学級賞〉

宮古市立田老第一小学校

6年

〈佳作〉

こうへいくんはえらいね 『まほうのじどうはんばいき』

二戸市立福岡小学校 一年 大西紗瑛

ぼくのみかた 『まほうのじどうはんばいき』

普代村立普代小学校 二年 山崎綾仁

ボタンのほしいもの 『こわがり子ネコのほしいもの』

盛岡市立桜城小学校 三年 真野孝介

五年一組のひみつ 『5年1組ひみつだよ』

盛岡市立城南小学校 五年 桐田景護

ひみつって 『5年1組ひみつだよ』

宮古市立田老第一小学校 六年 飯塚岳海

まほうのじどうはんばいきをよんで

宮古市立山口小学校 一年

上部 咲巴

「まほうのじどうはんばいき」をよんで、いちばんころにのこったことは、じどうはんばいきから、そのときにひつようなものがでてくるところです。すごいなあとおもいました。とくに、かぶとむしがでてくるところがすごかったです。ともだちと、むしぷろれすをしたときに、こうへいくんだけむしがいなくて、かなしそうだったから、かぶとむしをだしてくれたんだとおもいます。

まほうのじどうはんばいきは、こうへいくんのみかたです。もし、まほうのじどうはんばいきが、わたしのみかたをしてくれたら、あかちゃんのふくと、みるくがでてくるとおもいます。だって、もうすぐ、ままにあかちゃんがうまれるから。ままがきる、またにいていのおようふくもでてきてほしいな。

こうへいくんのみかただった、まほうのじどうはんばいきは、いなくなってしまう。まほうにたよってばかりだったこうへいくんをしいしたおかあさんが、じどうはんばいきをそつぎょうしてほしいとおもったからで

す。

こうへいくんは、なきだしてしまいました。

けれど、ひとりじゃなんにもできない、だめなおとなになりたくないとかんがえなおしました。

わたしも、かんがえました。まほうのじどうはんばいきがなくても、できることはなにな。わたしは、おかあさんのおなかをよしよしして、

「おおきくなってね。」

「がんばってうまれてきてね。」

と、はなしかけたいとおもいます。

おかあさんと、おなかのあかちゃんは、わたしのみかた。わたしは、おかあさんとあかちゃんのみかた。かぞくがみかたでいてくれるから、まほうがなくても、だいじょうぶ。

(図書名『まほうのじどうはんばいき』)

〈講評〉

心にのこったことをお話(はなし)にそって「じぶんだったらどうだろう。」と考えながら書き進(すす)めています。咲巴(さくは)さんはもうすぐ産(う)まれてくる赤ちゃんがまちどおしいのですね。心(こころ)の中(なか)がママと赤ちゃん(あか)のことでいっぱいです。文章(ぶんしょう)にもあるように咲巴(さくは)さんは「たのもしいみかた」になりそうです。まほうのじどうはんばいきが使(つか)えたらと考える(かんが)たり、つかえない方(ほう)がよいと考える(かんが)直(なお)したり、お話(はなし)を通して考える(かんが)こと、今(いま)大切にしていることが分かる(わ)のかもしれません。本(ほん)のよい出合(であ)いとなりましたね。

二年 最優秀賞

みかたはそばにいるよ

花巻市立湯口小学校 二年

佐々木 蒼空

ぼくは一年生のころからバスケットをやっているけれど、チームで一ばんせが小さい。バスケットが上手になりたくて、にわでれんしゅうをしたり、いえの回りをはしったりしている。だれどしあいに出ると、せの高い相手にぼくのボールはかんたんにとられてしまうから、いつもくやしい。だからまほうのじどうはんばいきという本のだい名を見たとき、ぼくのせが大きくなるようなまほうのくすりが出てきたらいいのになと、ぼくは思いながら本を読んだ。

こうへいが見つけたにじいろのはんばいきは、「あなたのみかた」とかいてあって、ボタンとくけとり口があるだけ。何が出てくるのか分からない。こうへいがゆう気を出してボタンをおしてみたなら、なんとカプトムシが出てきた。ぼくはなんてラッキーなんだろうと、うらやましくなった。その後もこうへいのねがいごとをどんどんかなえてくれたはんばいきは、ある日とつぜんきえてしまった。こうへいはすぐかなしかつたけれど、自分がこまった時になんでもはんばいきにたよってしまいうダメな大人にならないようにと、こうへいのためにすがたをけしたはんばいきは、や

さしいみかただなどかんじた。

はんばいきがこうへいのみかただったように、ぼくのみかたはバスケット部のなかまたちだと気がついた。学年もせいかくもバラバラで、いつもはきそい合うライバルだ。だけど、バスケットのしあいではぼくの目の前に大きいせんしゅがいたら、ボールをとられないさくせんを考えてくれる。せが小さくてぼく一人ではできないこともあるけれど、なかまが助けてくれたらシュートをきめることだってできる。

「蒼空、がんばれ！ 蒼空ならいける！」

いつもはげましてくるみかたがいるから、心が強くなるんだ。ぼくのそばにいる「あなたのみかた」にありがとうを言いたいな。

(図書名『まほうのじどうはんばいき』)

〈講評〉

はじめはカプトムシが出てくるじどうはんばいきをうらやましがっていたけれど、最後にはすがたを消したじどうはんばいきこそ、「やさしいみかた」だと読んだ蒼空さん。文章全体にリズムがあつて、考えが変わっていったことが分かりやすい構成で書かれています。蒼空さんにとっての「本当のみかた」が、「そばにいるバスケットのなかまたちだ」と気がついたことも、具体的に書かれてよく伝わりました。きつとほしかつた薬は、ひつようなくなりましたね。

いのちの大切さ

滝沢市立滝沢第二小学校 三年

中村 空 煌

ぼくは、たく山本を読んできましたが、読書でなみだがながれたのは、この本がはじめてです。主人公が大切にかけていた犬のハニーとおわかれするページを読んできました。ちょうどこの時に、ぼくがかつているしば犬のはなが、よめい一週間とせんごくされました。この本の内容と、ぼくの今のじょうきょうが同じで、主人公のふたばの気持ちがいよいよわかります。だから、本を読み終え「いのちの大切さ」について深く考えました。

ある日、いなかの町に住んでいるふたばのおばあちゃんがなくなり、そのおばあちゃんがかつていたハニーをほけん所にあずけるか、家ぞくでお世話をするか、家ぞくと親せきで話し合いました。ふたばはまよわず、自分が面どうを見たいと話し、ハニーとともに過ごす生活がはじまります。ふだんの何気ない生活でハニーのいへんに気づき、びょう気が見つかります。ハニーのかんびようと、さい後は息を引きとるしゅん間があり、そのわかれば悲しみだけでなく、ハニーにたいするいとおしい思いが、心のおくからふくらむふたばの気持ちや体けんがありました。この本を読んでいく中で、心にこつている場面が二つあります。

まず一つ目は、おばあちゃんがかつていたハニーをふたばが「かいたい」とさけぶ場面です。ハムスターや小鳥でさえ、かうことにはんたいされます。でも、ふたばはあきらめず、「ハニーを、かいたい。」と強い気持ちをつたえつづけます。すると、母はやさしい声で「つれて帰ろう。」と言ってくれました。がんばってかいたい

ことをつたえつづけ、かうことになった場面は、母のふたばをしんじるやさしさと、ふたばのハニーにたいするあいじょうを感じました。

二つ目は、ふたばが弱っていくハニーにがんばってりゅう動食をあたえつづける場面です。ハニーのびょう気は、ちのガンとしんだんされ、少しずつ食よくがなくなり、体力が落ちていきます。点てきをうちますが、ハニーはやせてしまいます。「ちよつとも食べなくちゃ。」と言い、ふたばはハニーを助きたい気持ちがむ理に食べさせてしまいます。母に「む理に食べるのは、つらいことよ。」と言われ、ふたばの目になみだがあふれます。ぼくのはなも目が見えなくなり、水をあげても上手くのめなかつた時に、ふ安になったことを思い出しました。でも、ふたばがハニーに近よると、しつぽを動かす場面は、食事をあたえることも大事だけど、近くにいてあげる心が心にきく一番のくすりだと思いました。

さい後は、ふたばのハニーとぼくのはなは家ぞくにかこまれ天国へたび立ちました。わかればつらいけど、この本とはなどの出会いがあつたからこそ悲しみの先に、心から大切に想うことをはじめてけいけんしました。大切にさせてくれてありがとう。

(図書名「ハニーのためにできること」)

〈講評〉

空煌さんがおかれている状況と本の内容が重なり、主人公の気持ちに寄りそつて読み進めたことが伝わってきます。母親がふたばを信じる優しさをとらえたり、弱っているハニーの近くにいたふたばが一番のくすりだと感想をもつたりできたのは、同じような体験をしたからこそだと思います。

心から大切に想うことをはじめてけいけんした空煌さん。命の大切さを深く考え、思いやりにあふれた感想文です。

私ができることを

盛岡市立桜城小学校 四年

五日市 晃緒

戦争は、大切な物をうばってしまいます。

「ガラスのうさぎ」の主人公江井敏子さんは、お父さん、お母さん、二人のお兄さん、二人の妹といっしょに、家族みんなで幸せにくらしていました。小さいころの敏子さんは、すもうが大好きな女の子で、毎日のようにすもうを見に行つて、楽しんでいました。

五年生になつた敏子さんは、ある日、お兄さんのお古のシャツを着て学校に行きました。お古のシャツがいやだつた敏子さんは、自分でお花のししゅうをしました。でも、先生に、「今は、戦争中ですよ。ししゅうを取りなさい。」

と、おこられてしまいました。そのころの日本は、戦争がはげしくなり、食べ物も、着る物も足りなくて、生活が大変になつていたのです。私は、お花のししゅうもダメだなんて、とてもきびしい時代だつたんだなあと、びっくりしました。

戦争がさらにはげしくなると、お兄さん達は出せいしました。敏子さんは、集団そ開に行くことになりました。家族がばらばらになつてしまったのです。ばらばらでも、命はありました。でも、その後、お母さんと妹達は、空しゅうで亡くなつてしまいました。家のあつた場所からは、ガラスのうさぎが見つかりました。半分以上とけてしまつたガラスのうさぎは、「家族みんなが幸せにくらしていたことを忘れないで」と、敏子さんをはげましているように感じました。私は、せめて、お父さんと幸せになつてほしいと思いました。でも、戦争は、さらにお父さんの命までうばつてしまい、家族みんなの命

が無くなつてしまつたのです。私だつたら、もう生きていくことができないと思います。悲しくて、何をしたらよいのか、考えることもできないと思います。敏子さんは、ガラスのうさぎを見ながら、いっぱい家族のことを思い出したと思います。幸せがもう戻つてこないと思つたとき、敏子さんは、自殺を考えてしまいました。でも、敏子さんは、気持ちを強くもつて、お兄さん達の帰りを信じます。敏子さんの心を助けたのは、きっと、生き残つたガラスのうさぎだと思ひます。心の支えがあつたから、気持ちを強くできたのだと思ひます。

私は、今年の夏休み、広島島の原ばくドームを見に行きました。展示資料には、たくさんの方が亡くなつたり、大けがをしたり、助けを求めたり、家族を探したりしたことが書いてありました。敏子さんや、広島の人々や、今戦争をしている国の人々のように、戦争で家族や家や全ての物を失ひ、悲しい思いをする人がいなくなるように、私は、戦争のない世界をいのりたいと思ひます。戦争はこわいけれど、戦争のことを知り、家族みんなにくらす幸せの大切さについて、これからも考え、みんなにも伝えていきたいと考えています。それが、私のできることだと思ひます。

(図書名『アニメ版 ガラスのうさぎ』)

〈講評〉

焼け跡から見つかつた「ガラスのうさぎ」が、生き残つた主人公にとつてどんな存在になつていたかを想像し、当時の人々のおかれた状況への理解を深めました。

晃緒さんは、広島市の原爆ドームを見学して、戦争のない世界にするために自分は何をするべきかを考えることができました。敏子の孫の真理が最後に話している「わたしにもできること、何か見つけたいな。」の答えを見つけることができたように思ひます。

自分らしく生きる

盛岡市立土淵小学校 五年

金森 一花

もし、亡くなった人に会うことができる機械があったら、私は何を
するだろう。

充希のお母さんの会社の試作品『シップ』。亡くなった人が映像
で現れて会話もできる。充希のおばあちゃんのデータを入力したら、
ばーちゃんが見れた。おばあちゃんに会うことができ、充希はう
れしいだろうと思った。

でも、充希は、ばーちゃんにうんざりしていた。私もお説教みた
いな小言は苦手だから、充希の気持ち分かる。だけど、充希は、
いつも明るくて前向きな本物のおばあちゃんなら、そんなことを言
わない、言うはずがない、という気持ち、思い出されがされたよう
な複雑な思い、おばあちゃんそっくりでも、何かがちがうばーちゃ
んにイライラしていたのだ。

私も充希と同じような経験がある。私は、鉱物が好きだ。友達に、
「石を集めるのって楽しいの？」ときかれたことがあった。友達に
悪気はないと思うけれど、モヤモヤした。自分の好きを否定された
ような気持ちだった。

その時は分からなかったけれど、充希を見て気が付いた。イメー
ジや思いは、みんなそれぞれちがうのに、私は友達に同じ感情を望
んでいた。自分の好きに自信が持てなかった。

今の私なら胸を張って言える。石を集めるのはとても楽しい。家
族やクラス友達みんなも、私が鉱物好きなことを知っている。自
分のことを分かってもらえるってうれしい。

ばーちゃんも、機械なのに感情を持ったことで、自分の存在につ

いて考えていた。自分の感情をかくして、充希のおばあちゃんとし
て行動していた。ちがいにとまどい、自分に何ができるのかを必死
に考えていたのだ。

充希が、ばーちゃんの感情に気付くことができたのは、見えてい
なかった部分、ばーちゃんの心に目を向けたからだと思った。ばー
ちゃんの自身と向き合い接してきたからこそ、最後にいなくなつてさ
びしかったのだと思う。

私は、図書館司書の仕事に興味がある。最初は、様々な種類の本
に囲まれて自由に読めて楽しそうな仕事だと思っていた。でも、見
えていない部分も調べてみたら、興味のないジャンルの本も覚えた
り重い本を一日何度も運んだり、カビが生えた古い本も取り除かな
ければならない。私のイメージとちがうことがたくさんあった。自
分の思いこみや見えている部分だけを見るのではなく、見えない部
分もしっかり見ることが大切だと感じた。

もし、『シップ』があったら、私は宮沢賢治に会いたい。石好き
の石つこ賢さんと石の話をしてみたいと思っていた。でも、ばーちゃ
るが、別の人格を持った第二の宮沢賢治になるかもしれないことを
想像したら、こわくなった。私は『シップ』を使うことはしない。

私は他のだれでもない。自分から好きなことを話して、いろいろ
な見方で物事を受け入れて、家族や友達と楽しく過ごす。ありのま
まの自分で、思い出をいっぱい作りたい。

(図書名『ばーちゃん』)

〈講評〉

今、人のように考えるAI（人工知能）が、話題になっています。この
本のように、亡くなったおばあちゃんのAIが現れたら、私たちはどのよ
うにかかわっていくことができるのでしょうか。一花さんは、自分の課題を
もって読み始め、例を挙げながら結論を導き出しています。主人公と自分
と比べながら、根拠をもって自分の意見を述べている書き方は、読み手の
心をつかむものであり説得力があります。

なりたい自分になるために

盛岡市立山岸小学校 六年

矢羽々 愛星

私は五歳から水泳を習っています。世界で活躍している池江璃花子選手に憧れて始めました。今年の春から全然自己ベストが更新できず悩んでいました。そんな時に「アタックライン」になりたいたわしになるために」という本に出会いました。本を読む事で自身自身を見つめ直し、自分の中の水泳に対する意識が少しでも変えられたらと思いい選びました。

主人公のみおと私には、いくつかの共通点があります。全国大会を目指している事、背が低いという事、練習熱心でなりたい自分をしっかり持っているという事です。みおも私も背が低いので思い描いたプレーや泳ぎができない事があります。ただみおは、全日本の試合の録画を何度も見ても見て背が低りペロの動きを研究して何度も何度も練習していました。時には弟の助言もあり、トスをあげるために受ける正しいボールの位置がサッカーのヘディングと同じで、ひたすらヘディングの練習をします。できるようにするまでとことん練習をしていました。私はみおのように練習熱心ではあるけれど、コーチに与えられたメニューを淡々とこなすだけの練習を一生懸命していました。これでは自己ベストを更新できるわけがないと気付かされました。コーチに与えられたメニューから、自分が早くきれいに泳ぐためにはどうしたらいいのか、手のかきの角度やそこからの伸び、足のけりやタイミング、そういう一つ一つの動作を意識しながら泳ぐ事が大切なんだと思いました。背が低くても考え方一つでこんなにもやれる事があるんだとちよっと嬉しくなりまし

た。練習を始めて、みおにはライバルのような仲間ができました。同じ小学六年生の大河は、チームの中で一番背が高い男の子です。大河のスパイクを顔面を受けてはすかしい思いをしました。でもみおは大河のスパイクを受けたのでひたすら研究して練習をします。私にも仲間だけどライバルな子がいます。そして自分自身もライバルです。私とみおのように背が低めだけど、そういうのを感じさせない力強い泳ぎをしています。大会のたびにあと一歩およばず悔しい思いをしてきました。きつとみおが大河のスパイクを顔面で受けた時はこんな悔しい気持ちだったんだらうなと私まで悔しくなったシーンでした。みおは練習を重ね、最後は大河のスパイクを受ける事ができました。次は私の番です。

この本を読んでから、私は何を意識して練習するのか、今の自分には何が足りないのか、自分自身を見つめ直すきっかけができました。背が低いなら低いなりにできる事をしっかり研究して、ひたすら練習して、私もみおのようにライバルにも自分自身にも勝ちたいです。九月に県学童大会があります。なりたいたわしになるために、自己ベストを更新できるように残り少ない練習時間を大切に、必ず自己ベスト更新してみせます。

(図書名「アタックライン」)

〈講評〉

第一段落の本を選んだきっかけ、第二段落の主人公に対する共感、第三段落の具体例やこれからの自分と強い決意という文章構成が、しっかりとしています。中盤で語られる愛星さんの水泳に対するひたむきさや、「自身もライバルです」と言い切るところなど、言葉に力強さが感じられます。後半部分、大河のスパイクを受けることができた美桜に感心するだけではなく、「次は私の番です。」という自分自身の生き方に重ねている部分には、本との出会いに対する喜びを感じます。

わたしだったらこうするよ

盛岡市立上田小学校 二年

田口 実千花

わたしは、じどうはんばいきからどんなものが出てくるのかワクワクしたので、「まほうのじどうはんばいき」という本を読みました。

ある日、こうへいがふしぎなじどうはんばいきを見つけ、そこからひつようなものが出てくることに気がつきます。じどうはんばいきにたよる生かつをしていたこうへいは、ある日、じどうはんばいきがなくなりがつかりしますが、それはよくないことだったと気がつき、みかたでいてくれたじどうはんばいきのやさしさにかんしゃするということお話を。

いちばんおもしろかったところは、ボタンをおしたらゲームきが出てきたところ。わたしだったら、ボタンをなん回もおして、ゲームソフトもたくさんもらいたくなってしまう。さいしよは、ほしいものがなんでももらえるじどうはんばいきがあるなんてうらやましいと思いましたが。ほしいものがたくさんあるし、らくに手に入れることができるからです。でも、ほしいものが手に入っても、お友だちとのじかんやどりよくするじかんは、じどうはん

ばいきではぜつたいに手に入らないだいなじかんだと思います。じどうはんばいきをゆうせんすることで、こうへいはそのだいじなじかんまでなくしてしまうところでした。

今、わたしはまいにちべんきょうしたり、友だちとあそんだりするじかんがとてもたのしいです。これから大人になっていくために、自分で考えたり、どりよくしたりすることは大切だと思います。それに、がんばったあとのごほうびはとくにうれしいです。今しかないじかんのしんで、ものによらずに自分で考えることができる大人になりたいと思いました。

（図書名『まほうのじどうはんばいき』）

〈講評〉

本との出会い、お話のあらすじ、そして、「一番心にのこったこと。分かりやすい構成で書かれています。その中で最後に実千花さんが考えたことがとても印象にのこりました。それは、「大切な時間」という考え方です。ほしい物が手に入っても「お友達との楽しい時間」や「努力する時間」は手に入らないと書いてありました。

最初は出てくる物にワクワクしながら読み進めていって、最後には、じどうはんばいきではぜつたいに手に入らないものまで、考えが深まっていったところが、すばらしいです。

戦争を起こすのも、止めるのも

宮古市立山口小学校 四年

箱石好南

ぐにやりととけてしまった耳。何かにおびえているようにも見えるガラス製のうさぎ。これは空しゅうにあつてしまったためだそう。ガラスは千度をこえないととけないのだそうだが、そのとけ方が空しゅうのはげしさ、そしてむごさをわたしに語ってくる。

戦争というものは、たくさんのものをうばっていく。今年、国語で勉強した物語では主人公はお父さんの顔を知らない。幼いころに兵隊に行ったつきり、帰ってこなかったからだ。また、去年は小さな女の子が主人公の物語だったが、戦争のせいで遊び場をうばわれて、家もなくなり、家族のだれ一人として帰って来ず、最後には主人公の命までなくなつてしまつていた。敏子も同じで、空しゅうや戦闘機からの機銃掃射で家族を失い、一人ぼっちになつてしまつていた。もし、自分が同じようなことになつたらどうだろう。生きようとする気力をなくしてしまうと思う。でも敏子はちがつた。

「お父さんやお母さん、信ちゃん、みっちゃんのことをだれが覚えていてあげられるの。みんなが生きてたことをだれが思い出してあげられるの。わたしは死ねない。死んじやいけないんだ。」

そう言つて立ち上がり、死ぬことを止めていた。わたしはこんなふうに思い直せる敏子がすごいと思つた。また、何より生き残つたからこそその使命と、生き抜くことの意味を発見できる敏子の心は樹木のようにだと思つた。樹木はどっしり立っているようだが、大きな台風のとときはしななつてゆれ、そのおそいくる風をやりすこす。家族との別れは敏子にとっては台風そのものだったと思う。あまりの

ショックにその心は死へと向かいかけた。敏子の心の枝が音を立てて折れそうになつたとき、それはゆるやかにしなり、反対方向の生きるという方に向いた、そんなふうに私の心には映つた。

「戦争を起こそうとするのは人の心です。戦争を起こさせないのも人の心です。戦争を起こさせない心の輪をしっかりと結び、世界に向かつて広げていきましよう。」——作者の高木敏子さんの言葉が私の心にひびく。今年、広島に世界の首相たちが集まり、原爆資料館を見学したり平和記念公園に行つたりしたというニュースを聞いた。高木さんのねがいが少しずつ前に進んでいるんだなと思つた。平和記念公園で花輪をたむけた世界の首相たちは、戦争をくり返さないこと、平和の大切さを心に深くきざみながらいのつただろう。

また、高木さんは言う。人の命のぎせいの上に、日本は永久に戦争をしない国になつた、と。私も高木さんからの平和のバトンを受けた一人として、過去の日本が戦争というもので落としてしまつたかげの部分を、もつと知つていこうと思う。学校の勉強と、たくさんの本を開くことで、多くを知つていきたい。

（図書名『アニメ版 ガラスのうさぎ』）

〈講評〉

読書を通して、「戦争」について深く考えることができました。本の内容だけでなく、自分が見聞きした作者の言葉や、平和を追い求める人々の思いまでじっくり考えることができました。

書き出しや主人公の生き方を樹木に例える書き方など、表現力も見事です。「作者から平和のバトンを受けた一人として、過去の戦争についてもっと知りたい。」という好南さんの決意が強く伝わってくる感想文です。

のらねこゼロを叶えたい

盛岡市立土淵小学校 六年

吉田 那乃葉

私がこの本を選んだ理由は、「ねこかつ」とはどんなことなのか興味を持ったからだ。この本は、不幸なねこがたくさんいること、そして、飼い主がいなくて一生幸せに暮らせるように、日々ねこの世話を続ける人たちがいることを教えてくれた。

ねこの保護活動を略して、ねこかつ。これは、梅田さんがオープンした保護ねこカフェの店の名前でもある。梅田さんは幼いころからねこが身近にいる存在だった。家ねこの寿命が二十年くらいあるのに対して、のらねこは三〜五年。同じねことして生まれてきても、これだけの差があることに驚いた。

梅田さんは、のらねこの問題を解決するためにTNRの活動を始めた。TNRとは、捕獲・不妊去勢手術・戻すを略した言葉。不幸なのらねこを増やさないための活動である。ただ、TNRにはお金がかかる。この活動に理解があり、安い料金でうけ負ってくれる獣医さんを探して頼んでもタダではない。友達のお母さんが、毎日のらねこが庭にフンをして困ると言っていた。TNRの活動が地域住民にとっても良いことはわかって、簡単に負担できるものではない。

東日本大震災の時、福島第一原子力発電所から放射性物質がもれ出し、家畜やペットを家に残したまま避難しなければならなかった人がたくさんいた。その時も、梅田さんは福島へ向かった。不幸なねこを減らしたいという一心で、放射能の影響がどれだけあるかわからないところへ行った梅田さんに私は驚いた。自分を犠牲にし

てまでねこを助けたのか。もしも自分が病気になってしまったら、保護ねこ活動も続けられないのではないか。ねこが大好きで、絶対に助けたいという梅田さんの強い思いが私にもわかった。

保護施設を持っていない梅田さんだったが、楽園のようなシェルターを作りたいという夢があった。全て寄付金を頼りにするのではなく、自分でかせいだお金で運営できるようにしたいという考えから、保護ねこカフェ「ねこかつ」をオープンさせることにした。

私は一度だけねこカフェに行つたことがある。ねこカフェでは、色々なねこがいて、それぞれのねこの名前や性格、年齢などが細かく書いて貼り出されていた。ねこのことをよく知って、新しい家族と幸せに暮らせるねこが増えてほしいと私も願っている。私はテレビの動物番組で、保護ねこや保護犬のことを知った。私はペットショップで動物を見ると、かわいしい欲しくなってしまう。でも、子ねこは弱くて、移動中に死んでしまうことも多いそうだ。動物も病気をするし年もとる。動物の命が粗末に扱われるのは悲しい。のらねこが減れば、保護ねこ活動も必要なくなる。そんな日が来ることを願いながら、今日もたくさんさんの人が保護ねこ活動をしている。私も、またねこカフェに行つてみようと思う。

（図書名『保護ねこ活動 ねこかつ！』）

〈講評〉

真つ先に目に飛び込んできて、読んでみたくなるような題名です。題名が、本を読んでもっとも言いたいことが表れている部分になっています。ここから先を読みたくなくなります。

ねこカフェに実際に行つて見た事実や感じたことが、この感想文に厚みを増しています。動物を飼うことは、「欲しい」という気持ちだけでは難しいものです。ペットを飼いたい世の中の人々が、那乃葉さんのような考え方もつことを願わずにいられません。

くらべてよむとおもしろい

盛岡市立上田小学校 一年

土井尻 しょう介

ふたりのおとこたちが、もりにまよっていると、いっけんのりつばないえがありました。「せいようりようりてんやまねこけん」と、かいてありました。そこは、きた人よりようりにしてたべるみせでした。

ほくは、この「ちゅうもんのおおいりようりてん」のおはなしをなんかいもよみました。おはなしは、まえにきいたことがあったけれど、この本は、じぶんでよむことができました。ただみほさんの本で、おもしろいとおもったので、えがちがうほかの本でもよんでみました。さとうくにおさんの本です。

ふたりのおとこは、山ねこにだまされて、へやをすすんでいきます。おはなしは、おなじです。でも、ちがうところがありました。ことばがちがいました。「おとこ」ということばが、「しんし」となっていました。「クリーム」は、「ぎゅうにゅうのクリーム」と、かいていました。のこっていたクリームを、ふたりがこっそり食べたとかいてあったので、おいしそうだなとおもいました。たぶん、ケーキにつかうような、なまクリームみたいなのだとおもいまし

た。ほかにも、ちがうことばをたくさんみつけました。

えは、すぐちがいました。ふたりのしんしのかおがちがいました。かみくずのようにくしゃくしゃになったかおも、ちがいました。山ねこのえも、ちがいました。たださんの本には、山ねこのえは、かぎあなからみえる目だけでした。でも、さとうさんの本では、くろい山ねこがたぐさんでできました。山ねこのおやぶんもでできました。ふたりのしんしがいるへやを、こっそりのぞいている山ねこもみつけました。

にさつの「ちゅうもんのおおいりようりてん」をよんで、いろいろはつけんがありました。つきによんでみたいみやざわけんじさんの本は、「どんぐりと山ねこ」です。

〔図書名「ちゅうもんのおおいりようりてん」〕

〈講評〉

聞いたことのあるお話を自分で読むことができてうれしかったのでしょね。何度も読んだと書いてありましたから。何度も読んでもらえることはとてもうれしいです。

二冊の本を読み比べたのも、宮沢賢治さんのえがく世界を楽しむ一つの読み方ですね。さし絵や言葉のちがいに注意して読み比べていきます。ちがいを見つけた時のしゅう介さんのわくわく感まで伝わってきました。さらにすてきな感想文にするために、今度はちがいでなく、どの本を読んでもおもしろかったところもみつけることにも挑戦してみましよう。

命を守りたい

陸前高田市立気仙小学校 三年

河野 心和

わたしは、この本の中の主人公ふたばが犬のハニーをかうことを決めて、大切に育てているところが大好きです。わたしも、犬などの生き物が好きなので、この本を読みはじめました。

この本は、ふたばという女の子のおばあちゃんがなくなってしまう、いっしょに住んでいたハニーが一人ぼっちになってしまいう話です。ふたばの家では動物をかってはいけなと言われていました。しかし、ふたばは、ハニーがほけん所につれていかれ、ころされたり、ひとりでさびしい思いをさせたりしてはかわいそうと思いましたが、そこでゆう気をもって、お父さんやお母さんに「ハニーをかいたい。」

とつたえて、ふたばの家でかうことになりました。それから、家族みんなでハニーを育てていきました。

そのようなハニーは、びょう気になってしまい、しんでしまったのです。わたしが一番心にのこった場面は、びょう気になったハニーを家につれて帰って来たとき、ハニーのねる場所を家族みんなで考えて、ゲージを買ってあげたところです。その時、ふたばは毎月もらうおこずかいののこりやお年玉を大切にためた金ばこを出してお母さんに

「使っていい。」

と聞きました。私はハニーのために自分の大切なおこずかいを出したふたばの強い気持ちや、自分がしっかりお世話しようとして行動したことは、とてもえらいと思いました。また、ハニーがしんでしまう

までたくさん心ばいしたり、やさしくしたりしながら育てていて、そこがとてもかっこいいと思いました。

わたしは、ふたばのように犬をかったことがありません。しかし、わたしは生き物が大好きなので、いつかは犬をかいたいと思っています。

わたしがふたばと同じ立場だったら、ふたばのようにハニーのために自分のお金を出してお家を買ってあげたいと思います。ふたばは、ハニーがびょう気でしんでしまいかない気持ちだったけれど、さいごまでまもり育てていました。とてもすばらしいことだと思いました。私も犬などの生き物をかうことになれば、さいごまで大切に育てていきたいと思えます。

全ての生き物には大切な命があります。まわりがその命を大切にしないと、生き物は長生きできません。と中で命を落とすことになります。そうになると、その生き物もかなしい思いをするし、かっているまわりの人たちもかなしい気持ちになります。わたしは、これから生き物の大切な命をまもり、大切に育てていきたいと思っています。

（図書名「ハニーのためにできること」）

〈講評〉

主人公ふたばが、心を込めて精いっぱいハニーを世話する姿に心をうたれ、その行動が「かっこいい。」と感想をもちました。心和さんは犬をかった経験はないようですが、主人公と同じ立場だったら自分はどうするのかと心をはたらかせて読むことで、人物の行動に対する感想を深めることができました。

まとめには、全ての生き物の大切な命について考えが書かれています。きっと主人公ふたばから教わったことなのでしょうね。

風を切って走る自分になるために

軽米町立晴山小学校 五年

古 舘 陽 和

「美緒ちゃん、なりたい自分になるって、かん単じゃないよね。」たくさん苦難があることにちよう戦し続けることは、だれもができることではないと思います。わたしは、美緒ちゃんの背中に、大きな希望のつばさが見えた気がしました。

わたしは、この本に出会ったころ、マラソン大会に出場するかまよっていました。きよりが昨年より長くなり、コースも上り坂が二回もあるので正直つらいです。しかし、このマラソン大会には、六年間出場すると、継続したことを表しようしてくれる制度があります。「継続して努力することに意味がある」と母に言われ、姉や兄に続いて参加してきたのですが、昨年まで一緒だった兄も中学生になり、今年は一人なので、心細く弱気になっていました。そんな時、「なりたい自分になるために」というサブタイトルを目にし、背中を「おししてもらえそうな気がして、本を開きました。

本の中では、美緒ちゃんが、バレーボールをがんばっていました。種目はちがうけれど、わたしは、美緒ちゃんに共通点を見つけました。美緒ちゃんは、身長が低かったために、「スパイクを打つことは無理だ」と親やチームメイトからポーターラインを引かれました。バレーボールが高身長なほど有利なスポーツならば、マラソンは、細身なほど有利です。わたしは、五年生にしては体格が良い方なので、マラソンや駅伝の時は、心ない言葉を言われる時がありました。だから、美緒ちゃんが、くやしかった気持ちにはよく分かります。でも、美緒ちゃんは、私とは違いました。くやしい気持ちで終わるのでは

なく、身長の手帳をおぎなう努力をしたのです。

わたしは、この本を読んで、どんな時も前を向いてがんばる美緒ちゃんに勇気もらいました。身長の子に何度も立ち向かうのは、こわさもあつたと思うけれども、下を向かない美緒ちゃんは、力強くかかっているように感じました。

また、美緒ちゃんの努力の仕方に感心し、弟子になって美緒ちゃんの考え方や取り組み方を学びたいと思いました。美緒ちゃんは、全日本バレーの試合を見て研究したり、自分と上手い人の違いを考えて自分なりの練習法をみだしたりしていました。わたしは速く走れるようになりたいと思っても、体格を理由にあげてしまい、速い人がどんな走り方をしているかなんて考えもしませんでした。

「なりたい自分になるために」に美緒ちゃんは、勇気と努力でみんなと一緒に練習ができるようになったのです。ここからが自分に挑戦するスタートラインです。美緒ちゃんからもらった勇気を胸に、速い人に、どんなことに気をつけて走っているかたずねたり、ペース配分を考えて練習したりして、わたしは、風を切って走る自分に近づけるようがんばります。〔図書名「アタックライン」〕

〈講 評〉

会話文から始まる書き出しや題名から、「なりたい自分になるため」というキーワードをもって読み進めていることが伝わります。このキーワードを最後にも使っていることで、一貫性のある文章になっています。また、身近な話題を取り上げ、陽和さんがマラソンに向き合う素直な気持ち率が率直に伝わります。主人公から気付けられたことは、陽和さんにとって、これからの「ちよう戦」することへのはげみになるでしょう。

わたしのみかた

盛岡市立北厨川小学校 二年

くす山 やま かな

わたしは「まほうのじどうはんばいき」というだいなを見て、まほうのどうぐが出てくるはんばいきかな、とそうぞうしました。しかし、読んでみたらぜんぜんちがってました。

ボタンとうけとり口があるだけで、しょうひんの見本も、お金の入れるところもない、小さく「あなたのみかた」と書かれた、にじ色のはんばいき。出てきたのは、カブトムシやさん数ドリル、ぞうきんやチョコレート、なわとび、ジュース、それにさいしんのゲームキです。ぜんぶしゅ人こののこうへいくんにひつようなものや、ほしいと欲っていたものでした。わたしは、

「なんでもじどうはんばいきからほしいものをゲットするなんてずるいよ。」

と思いました。そして、もしわたしがボタンをおしたら、なにが出てくるのかをそうぞうしてみました。おかあさんは、

「ほじよりんつきのじてん車はどう。」
と言っていたけれど、わたしはそれよりも、二じゅうとび

がらくらくできるなわとびや、さか上がりができるようになるてつぼう、いつもかりられていてまだ読んでいない本などが出てきたらうれしいです。

もしわたしのいえの近くにも、このじどうはんばいきがあったら、ワクワクしてなん回もボタンをおしに行つてしまいかもしれません。でもそうしたら、本の中の話みたいに、「わたしのみかた」だったはんばいきは、わたしの前からきえてしまうのかな。

「ひとりじゃなんにもできないダメな大人」になるのはいやだし、なるべくはんばいきにたよらないようにするから、できるだけ長くそばにいてほしいと思いました。「わたしのみかた」になつてもらえるように、わがままを言わないように、生かつすることをがんばります。

〔図書名『まほうのじどうはんばいき』〕

〈講評〉

題名から予想したこととはちがうなと考えたかなさん。何回も押しに行きたくなるじどうはんばいきと感じたかなさん。何が出てくるかお母さんと一緒に考えているかなさん。本を読み進めていく時のわくわく感が一つ一つの文から折り重なるように伝わってきます。

最後には、はんばいきにできるだけ長くいてほしいから、ずっとみかたとしてそばにいてほしいからわがままを言わないと書いています。この言葉をじどうはんばいきが消える前に主人公に教えてあげたいと思いました。新しいお話の続きを想像したくなる感想文でした。

小さいことも協力すれば大きくなる

平泉町立長島小学校 四年

千葉 愛美

わたしは、「保健委員は恋してる」という本を読んで、一人一人の協力するすがたに感動しました。

この本を選んだ理由は、帯にあった「学校生活をかえるのは、きみだ！」という言葉が気になったからです。

この物語は、小学校四年生の女の子である加藤アスカが主人公です。アスカは、去年からの担任である岡崎純平先生に恋しています。けれどある日、岡崎先生は、道にとび出した子どもを助けようとして車にひかれ、入院してしまいます。そのため、岡崎先生のかわりに安藤権太郎先生が担任になるのですが、安藤先生は見るからにおじさんで、こわい顔をしていて、性格もこわそうです。明るく、笑い声がたえなかつたクラスが、一日中おそう式のように静かになってしまいます。けれど、アスカやクラスのおみんなのおかげで、このクラスはまた明るいクラスになっていきます。

わたしがこの本を読んだところ、一人一人が全力で協力し合っていたところ、例えば、こんな場面がありました。クラスがとった赤色や黄色の封筒を取りもどすために、アスカたち九人は組体操の人間ピラミッドでクラスがのぼっていた木に近づきます。でも、一番上にのぼるシヨウタは、クラスにつつつかないか心配していました。そこで、クラスをおいはらうために、ねこのまねをします。すると、クラスはいっせいに飛び立ち、二つの封筒はぶじ、子どもたちのところにもどってきました。

この場面をすごいと思ったのは、もしわたしが同じような立場に

なっていたら、あきらめてしまうと思ったからです。もし追いかけたとしても、つかれはてて、と中で追いかけるのをやめてしまうと思います。けれどアスカたちは、あの封筒がとても大事だから、あきらめずに追いかけて続けたんだと思います。そして、九人が協力したからこそ、とりもどせたんだと思い、そんなみんなをすごいと思いました。

わたしは、この本を読んで、協力するということの大切さを学びました。わたしはよく、いやなことをされてもまわりに相談できず、一人ではかえこんでいました。これからは、一人ではできないことやかいて決できないことは、だれかに相談したり、協力してもらったりして、自分から助けを求めるようにしたいです。けれど、まわりの人たちに協力してもらうだけではなく、こまっている人がいたら自分から声をかけて協力していきたいです。そして、アスカたちのように、明るく元気なクラスになるように自分にできることを進んで行っていきたいと思います。

「学校生活をかえるのは、きみだ！」ということをわすれずに。

（図書名『保健委員は恋してる』）

〈講評〉

九人が協力し合う場面の素晴らしさをとらえ、協力することの大切さに気づいて感想を深めました。もし自分が同じような立場だったらどうするのか、自分と比べて読むことで、このような感想をもつことができました。自分自身をふり返ったり、協力の意味を考えたり、愛美さんの背中を押してくれる素敵な本を読むことができましたね。

アスカの学級のような明るく元気なクラスをめざしてがんばってください。

百年時代をより良く生きるために

宮古市立田老第一小学校 六年

伊 東 光 輝

お金ってとても大事。だからお金に関することは子どものうちから知ってないと損をすることがあるかもしれない。そんな思いをもっていたぼくの目の前に現れたのが「お金の学校」だ。なんてステキなタイミング。早速、この学校に入ってみることにした。

ぼくが一番おどろいたのは、百歳までに使うお金が二億円っていうことだ。そういえば、学校でやった租税教室でもそんなことを言っていた記憶があるが、そのときは「へー」ぐらいにしか思っていなかった。でも、今さらのようにもう一度、その金額について改めて考えてみた。すると、一年に約二百万円も使うということが見えてきた。そんなにはぼくが使ってるわけじゃないかと思いつつ、おやつのお金を口にした。あれ、このおめもたじゃない。毎日の食事や着ている服、ひまな時間を楽しく変えてくれるゲーム機だってお金を出さずには手に入れることはできないものだ。他にもぼくを囲むたくさんのお金無しには使えないものばかりだ。それらを全部たしたら、一年に二百万円はおどろく数字ではないということが分かってきた。

この学校の授業で何より心に残ったのは、一時間目だ。「働くのは何のため」という難題を出され、ぼくは「お金を稼ぐため」と答えた。しかし、それは五十点の答えだった。もう五十点は「人や会社の役に立つため」なのだそうだ。確かに世の中には数え切れないほどの種類の仕事があって、お金だけが欲しいなら、どんな職業だっていいだろう。でも自分がいやだと思ってしまうような内容の仕事だとした

ら、それは長く続くだろうか。給料をもらったとしても、楽しいとかうれいという思いをもてるだろうか。また、その仕事でつながった人達とも良い関係を保つことができるだろうか。きつといやいややる仕事なら、長くは続かないだろうし、やりがいみたいなものを感じることもできない。そこでできた人間関係も、もしかしたら自分にとっては後味のいいものではないような気がする。

また、お金のもらい方についても様々あることを知った。野球の大谷選手の年俸は六億円と聞く。金額の高さにはぼくの心は踊ってしまふけど、スポーツ選手の現役期間はそれほど長くはない。また、けがで試合ができなくなることもあるし、けがをしなくても体のメンテナン費用なんかかかるのだそうだ。そう考えると金額だけが問題なのではないことが分かった。年俸以外のお金のもらい方として月給制、時給制なんてのもあるのだそうだ。

これまでのぼくは、働く＝疲れることだと思っていた。でも、この学校で授業を受けることで、働くことへの印象がかなり変わった。もちろん、お金を手にすることに對する思いも変わった。人生百年時代をより良く生き抜くことができるよう、何気なくぼくの前を通り過ぎるお金も捉えながら生活していきたい。

（図書名「Oh!金の学校」）

〈講 評〉

「お金ってとても大事」という言葉を、光輝さんは、自分の言葉で言いかえたり、自分にしかない経験をもとにして書いたりしているところがさすがだと思います。

授業で受けた租税教室や、「働くこと」の意味など、日常につながるべきことを取り上げ、これからの自分の生活に生かそうとする考え方にも大いに共感して読むことができました。本を読んで受けた驚きや感動が素直に伝わってくる文章です。

審査を終えて

第七十九回夏休み良書読書感想文コンクールには、三十二校、六十四人の児童から応募がありました。皆さんが生まれてから一番暑かった夏。そして、コロナウィルスに閉じ込められていた日々から解放されて、色々な所に出かけたり、様々な体験をすることができて、忙しかった夏。そんな夏に、本を読み、感想文を書いて応募してくれた皆さんの頑張りに拍手を送ります。

応募作品の良かった点や課題点について学団ごとに報告します。

【低学年】

一年生は入学して半年もたたないのに、文章をきちんと書き、本を読んで考えたことを伝えたいという気持ち伝わってききました。また、二冊の本を読み比べて、その違いについて書いたり、次に読みたい本を書いてくれた子もいました。

二年生は、読んだ本を自分の中に取り込んで、本の内容と自分の生活経験を織り込みながら書いたり、段落の構成を考えながら書いたりした作品が多く、説得力がありました。感想文を書いている姿が想像できるような気にさせられました。

課題点は、原稿用紙の使い方です。慣れていなくて、使い方がよくわからない時には、先生に教えていただいてもよいと思います。また、せつかく本を読んで、その感想を文章にするのですから、規定の字数を有効に使って、思いを伝えてほしいと思います。

【中学年】

中学年になると、文章を書くのにも慣れてきて、自分なりの言葉を使って、魅力的な書き出しで始まる作品が多くありました。本の内容を体験とからめて書き、本から得たことを深めていったのは、よい経験になったと思います。

課題点は、一つ目は文章の分量です。低学年より既定の字数

が増えた分、感想や考えを表現できる範囲が広がったのですから、文章の構成や段落を考えながら、作品を仕上げてほしいと思います。二つ目は、本を読むきっかけを書くことに重きをおいてしまい、感想の部分が短くなってしまっている作品がみられたので、一番伝えたいことは何なのか、確認しながら書いてほしいということです。

【高学年】

今までの読書や文章を書く経験の積み重ねが感じられる、整った形での作品が多かったです。体言止めが効果的に使われ、文章が引き締まって、惹きつけられる場面もありました。

その反面、文章の構成が、その本を手にとったきっかけ↓あらず↓心に残ったこと↓まとめというふうには、パターン化されている作品が多かったのは残念です。自分が一番伝えたいことは何なのかを念頭において文章を組み立てていくと、充実した感想文になっていくと思いますし、感想文に限らず、これから文章を書いていくうえでも参考になることでしよう。

さて、読書の季節がやってきました。好みの本や好きな作家の本にどっぷりつかるとは幸せな時間です。読書の時間がたくさんとれるのは、小学生の特権でもあると思います。その特権を使って、たまには手に取ったことのないジャンルの本もひらいてみると、読書の幅が広がると同時に、視野もひろがっていくことでしよう。

読書体験と実体験がリンクすることで、新たな感動や驚きが生まれたり、これからの自分の生き方について考えることができると思います。一冊一冊の本との出会いを大切に、小学校を卒業しても、本と触れ合う時間を見つけてほしいです。それはきっと心の栄養となり、つらい時には励ましを、そして、時には心楽しいユーモアを届けてくれることでしよう。

審査員 藤村 由美

たくさんのおうぼ
ご応募、ありがとう。
次も、お友だちをさそってトライしてね。



次回予告

令和5年度冬休み良書推薦運動 第80回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会
・(一社)岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2023年「冬休み良書推薦運動」
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (10月下旬案内開始予定)
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点 (県下小学校児童)
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
(他のコンクールとの二重応募は認めません)
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)
・応募作品の著作権、版権は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2024年1月19日(金) 当日消印有効
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
「読書感想文コンクール係」
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 9 賞 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞・岩手県学校図書館協議会長賞・
岩手県PTA連合会長賞・優秀賞・入選・佳作・努力賞・
学校賞・学級賞

